村上市立村上小学校

村小だより

令和２年１２月１５日発行

努力を称え　次につなげたい

校長　鈴木　正美

児童玄関脇の水槽では、孵化した鮭の稚魚たちがちょこちょこと動き回り、日に日にその範囲を広げています。夏・秋・冬と季節の変化を肌で感じた2学期でしたが、2学期（87日）も間もなく終業式を迎えます。晩秋には、新型コロナ感染予防への対応に加え、熊出没に神経を使う日々もありました。保護者、地域の皆様からのご協力に心から感謝申し上げます。

この間、子どもたちは、大運動会や文化祭、クロスカントリー記録会等に向けた練習や準備に本気になって取り組み、大きな成果を見せてくれました。併せて、科学研究や作文、習字、絵画等の様々なコンクールに自ら進んでチャレンジし、優秀な成績を収めた子どもたちも多かったと思っています。素晴らしいことです。一人で黙々と努力することやみんなと力を合わせて成し遂げること、ともによくがんばった2学期だったとふり返っています。

１学期同様、終業式で「全校としての2学期のがんばり」を子どもたちに示し、3学期のがんばりにつなげてほしいと思っているところです。

＜12月１日全校朝会から＞

間もなく冬本番を迎え、体が縮こまってしまいがちな、この時期、これまでのように新型コロナウイルスの感染予防をしっかり行いながら、寒さに負けないで、元気いっぱい活動してほしいと思います。

そこで、丈夫な体をつくるための大事な話を今年もしたいと思います。それは、体の「骨」の話です。実は、「骨」は、毎日少しずつ古い骨が壊され、食事でとった栄養をもとに新しい骨が作られています。（古い骨を壊すのを「こわちゃん」、新しい骨を作るのを「つくちゃん」と言うことにします。）この「こわちゃん」と「つくちゃん」が分担して、およそ2年半で皆さんの体の骨は新しく作り替えられます。それを繰り返し、私たちの体の「骨」は、強く、大きくなっていくのです。

でも、困ったことがあります。「こわちゃん」は、私たちが寝てるときも、起きているときも、年中休まず働くのに対し、「つくちゃん」は、私たちがある信号を出さないと働いてくれません。「つくちゃん」が働かないと「こわちゃん」だけが骨をこわし続けることになってしまい体が弱ってしまいます。

では、「つくちゃん」に働いてもらうための信号とは、何なのでしょうか。それは、「運動」をすることなのです。「登下校で歩く」「体育で運動する」「休み時間に体を動かして遊ぶ」などは、「つくちゃん」を働かせる、とても大事な信号なのです。中でも「走る・ジャンプする運動」は、強い信号になるそうです。

寒い冬になりますが、安全に気を付けながら、運動を通して丈夫な体をつくってほしいと思います。

さて、どのご家庭でも「年越しする」「新年を迎える」ために、非日常的な（普段と違う）行いやその準備作業等があると思います。既に家庭(地域)で行われていると思いますが、是非、学年に応じた役割(手伝い)を与え、取り組ませ、認めてやり、自分の成長を自覚させ、「家族(地域)の大事な一員」であることを実感させてほしいと願っています。間もなく、冬休みになりますが、子どもたちの見守りや励まし、よろしくお願いいたします。

今年一年のご理解とご支援に心から感謝いたします。よいお年をお迎えください。